

事業番号	05 12 01	事業改善シート（令和7年度実施事業分）		☐ 当初要求	☐ 当初予算案	☐ 補正予算案	☒ 点検
事業名	医薬品等の安全確保・適正使用の推進	部局	健康福祉部	課・室	薬事管理課		
		実施期間	S22 ～	E-mail	yakuji	@	pref.nagano.lg.jp

1 現状と課題

- 1 医薬品等を適正に取扱い、使用するために、事業者の監視指導等を通じて医薬品等の品質・安全性を確保するとともに、不足する県内の薬剤師について実効的な取組が必要である。
- 2 医療に必要な血液の安定した確保を図るとともに、少子高齢化が進展するなかで、将来の献血者数を確保するため、10～30代の若年層への啓発が必要である。
- 3 依然として大麻・覚醒剤の薬物乱用は後を絶たず、特に若年層への薬物乱用が懸念される状況であるため、若年層に対する薬物乱用防止啓発の推進が必要である。
- 4 新型インフルエンザの流行や地震等の災害時に備え、抗インフルエンザ薬や必要とされる医薬品、衛生資材を持続的に確保しておく必要がある。

2 事業目的

製造・販売される医薬品等の品質、有効性や安全性の確保、医薬品の適正使用及び違法な薬物等への対策、輸血用血液製剤等の確保及び、緊急時の医薬品等の体制整備などへの持続的な取組により、県民が安心して暮らすことができるようにする。

3 事業目的を達成するための取組

- ① 医薬品等の品質・安全性等の確保及び適正使用環境整備
- ・薬局及び医薬品、医療機器等の製造業者、販売業者等の監視（薬事監視）の実施
 - ・製造業者等の資質向上研修会や医薬品適正使用に向けた知識啓発・普及への取組
 - ・県内の病院薬剤師を確保するため、奨学金の返還を補助
 - ・薬剤師の資質向上及び離職している薬剤師の復職に向けた研修会等の開催
 - ・賃上げや物価高騰に直面する薬局の安定的なサービスの提供を支援するため、賃金及び物価上昇分の一部を助成する。
 - ・原油・原材料価格の高騰に直面する薬局の安定的なサービスの提供を支援するため、光熱費等の価格高騰分の一部を助成する。
 - ・新型インフルエンザの発生とまん延に備え、健康被害を最小限にとどめるため、感染の拡大防止と患者等の治療に必要な抗インフルエンザウイルス薬を購入し、備蓄する。
- ② 若年層への献血啓発
- ・若年層の目に触れ易いバナー広告を利用した広報
 - ・プロスポーツチームとのタイアップによる観客への啓発
 - ・中学生・高校生からの献血推進ポスター募集
- ③ 若年層への薬物乱用防止啓発
- ・薬物乱用防止指導員等へオーバードーズ等の最新かつ正しい情報を提供するための研修会の実施
 - ・若年層の目に触れ易い音楽配信アプリ広告等を利用した広報
 - ・若い世代への薬物乱用防止意識啓発事業（高校生が薬物依存経験者の体験談を直接聞き、更に共に話し合う機会を設ける。）
 - ・薬物乱用防止指導員等による薬物乱用防止教室の実施
- ④ 緊急時の医薬品等管理・供給体制の整備
- ・新型インフルエンザが発生した際に、感染拡大を防止するため県民に早急に配布する抗インフルエンザ薬の購入・備蓄
 - ・地震等の災害時に使用、必要とすることが多い医薬品や衛生材料の備蓄

4 成果指標

（推移の凡例 ↗：改善 ↘：悪化 →：変化なし —：数値なし）

No.	指標名	単位	R5年度	R6年度		R7年度		R7年度 目標値	達成 状況	目標値設定理由
			実績	実績	推移	実績	推移			
①	薬事監視実施率	%	36.4	37.9	↗	40.4	↗	35	達成	医薬品医療機器等法による許可年限は5年もしくは6年が多く、定期的な監視として許可年限の中間時と更新時に行うこと（3年毎）を目標とした。
②	献血目標達成率	%	100.6	99.7	↘	98.1	↘	100	未達成	毎年策定される長野県献血推進計画に対する献血目標達成率を目標値とした。
③	薬物乱用防止講座実施校数	校	52	53	↗	47	↘	60	未達成	若年層に対する啓発指標として、薬物乱用防止講座を、県内の半数の高等学校で毎年実施することを目標値とした。
④	抗インフルエンザ薬備蓄目標量 達成率	%	100	100	→	100	→	100	達成	国からインフルエンザの流行予測等から備蓄目標量が示されており、この量を備蓄できるよう目標値として設定した。

5 本事業が貢献する総合5か年計画の施策分野と達成目標

No.	施策分野（施策の総合的展開名）	達成目標 （☆印が付いているものは主要目標）	単位	直近3か年の状況						目標	
				年／ 年度	数値	年／ 年度	数値	年／ 年度	数値	年／ 年度	数値
1-5②	充実した医療・介護提供体制の構築										
1-6①	県民生活の安全確保										

6 事業コスト

（単位：千円、人）

区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計 （予算現額）	うち一般財源		
R7年度	60,972	152,099	365,173	578,244	145,242	137,232	17.3
R6年度	0	191,160	18,019	209,179	56,406	126,911	17.3
R5年度	0	64,643	178,330	242,973	23,403	225,146	15.6

事業番号	05 12 01	事業改善シート（令和7年度実施事業分）			☐ 当初要求 ☐ 当初予算案 ☐ 補正予算案 ☒ 点検		
事業名	医薬品等の安全確保・適正使用の推進		部局	健康福祉部	課・室	薬事管理課	

7 主な取組実績と成果

①医薬品等の品質・安全性等の確保及び適正使用環境整備

- ・薬学生、U・Iターン希望者、県外在住未就業薬剤師をターゲットにした就職・復職説明会をオンラインにより開催した。また、本事業について、新聞広告やホームページ、SNSなど各種媒体を用いて県内外へ広く広報した。さらに、未就業・復職間もない薬剤師向けに、自宅で都合の良い時間に学習できるよう、eラーニング形式による座学研修を実施し、復職に必要な最新の情報を提供した。また、奨学金返還中の病院薬剤師12名に奨学金の返還を助成した。
- ・電子処方箋の普及拡大、利活用の促進による質の高い医療サービスの提供、医療機関・薬局の業務効率化等を推進するため、283施設へ補助を実施した。
- ・医薬品医療機器等法に基づき、製造業者、販売業者等の監視指導を実施し、医薬品等の品質、有効性及び安全性を確保することができた。また、県民の目に触れやすいテレビやラジオのCMで医薬品適正使用のための呼びかけを実施した。
- ・賃金、物価上昇分補助事業及び抗インフルエンザウイルス薬備蓄事業は翌年度に繰越して実施する。

②若年層への献血啓発

プロスポーツチームとのタイアップによるサポーターへの献血啓発を3回実施し、112名の方に献血いただいた。また献血リーフレットの全高校生への配布(51,600部)、献血推進ポスターの募集及び啓発ポスターの県内の大型店舗やコンビニエンスストアでの広告並びに若年層の目に触れ易いバナー広告(10,400,234回表示)、全県立高校への訪問等による協力要請を実施した。この結果、県内高校での校内献血や献血セミナーが増加に転じるなど若年層への献血意識向上に向けた環境づくりを推進することができた。

③若年層への薬物乱用防止啓発

・高校生、大学生等の薬物乱用防止意識を高めるため、薬物依存経験者の体験談を聞く講座を県内14校の3,186名に対して実施した。また、若い世代に対し、長野県薬物乱用防止指導員（371名）、保健福祉事務所職員等による講座を232回実施し、18,875名に対して啓発を実施した。受講した生徒からは、「薬物乱用の恐ろしさを学ぶことができた」「薬物に誘われた時の断り方について、今から考えておく必要性を感じた」等の感想が寄せられ、薬物乱用防止に対する効果的な意識啓発につなげることができた。

・若年層の視聴が多く見込まれる音楽配信アプリで1回20秒、210,822回の広告配信し、若い世代への薬物乱用防止意識の高揚をはかることができた。

④緊急時の医薬品等管理・供給体制の整備

「災害用医薬品等備蓄事業補助金交付要綱」に基づき、備蓄事業者 2 者に対し、備蓄状況を確認の上、補助金を交付した。
備蓄目標量である286,200人分の抗インフルエンザウイルス薬（タミフルカプセル等全 6 品目）を備蓄した。

8 成果指標の達成状況に関する要因分析

指標 ①	薬事監視実施率	R6年度推移	↗	R7年度推移	↗	達成状況	達成
必要な監視指導を着実に実施し、医薬品等事業者が適切に医薬品等を取り扱っているか、確認することができた。							
指標 ②	献血目標達成率	R6年度推移	↘	R7年度推移	↘	達成状況	未達成
50代以上については献血者数が増加しているものの、20代から40代までについては減少したことにより、目標とする献血者数には届かなかった。							
指標 ③	薬物乱用防止講座実施校数	R6年度推移	↗	R7年度推移	↘	達成状況	未達成
講座内容の充実化や講座実施の周知啓発をしたものの、高等学校の視点の多様化により実施校数が伸び悩み、目標値の60校には届かなかった。							
指標 ④	抗インフルエンザ薬備蓄目標量達成率	R6年度推移	→	R7年度推移	→	達成状況	達成
備蓄目標量である286,200人分の抗インフルエンザウイルス薬（タミフルカプセル等全6品目）を備蓄できた。							

9 今後の事業の方向性

(1) 上記 7、8 及び県民の意見等を踏まえた課題

- ・監視の際に指摘した事項等を踏まえ、引き続き効果的かつ効率的な監視を実施し、医薬品の品質、有効性及び安全性を確保する必要がある。
- ・県内に薬学部がない長野県では県外就職者が多く、また資格保有者の約6割が女性で、結婚・出産による未就業状態等もあり、病院や薬局における薬剤師を確保する必要がある。
- ・献血者の確保に向けて引き続き、広く県民に献血の必要性に関する広報・啓発を推進していく必要がある。特に、これからの日本社会の人口動態を考慮すると、献血可能人口は減少すると推定されるため、将来の献血者数の確保に向け、若年層に向けた取組が必要である。
- ・全国の薬物事犯の状況を見ると、特に30歳未満の検挙者が高い割合にあり、引き続き若年層への薬物乱用防止に対する意識啓発を実施する必要がある。

(2) 事業改善の方策

- ・医薬品等の製造から販売までの各段階での許可業者の資質向上及び病院・診療所における医薬品等の適正な取扱いを推進する。
- ・県内の薬剤師を確保するため、関係団体と連携した研修や県内への就業促進のための相談会の開催、病院薬剤師への奨学金返還助成などを通し、支援体制の整備を進め、薬剤師不足を解消することにより良質な医療の提供体制の確立を図る。
- ・献血者の必要性に関する県民に向けた情報発信を積極的に行うとともに、将来の献血者数の確保のため若年層への献血意識向上に向けた広報資材の配布や学校訪問等を通し、献血に触れ合う機会の提供や献血への理解を深める取組などを推進し、献血者数の増加につなげる。
- ・薬物乱用防止の講座について、薬物についての最新情報を取り入れる等、内容を充実を図り、講座の実施回数や啓発人数を増加させるとともに、一層の若い世代の薬物乱用防止意識の高揚を図るため、若年層の目に触れやすい音楽配信アプリ広告等を利用した幅広い広報に取り組む。

事業番号	05 12 01	細事業一覧（令和7年度実施事業分）			☐ 当初要求 ☐ 当初予算案 ☐ 補正予算案 ☒ 点検		
事業名	医薬品等の安全確保・適正使用の推進			部局	健康福祉部	課・室	薬事管理課

細事業 No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
1	医薬品等監視指導事業		18,654 千円	16,098 千円	12,248 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	許認可事務及び監視指導	直接	・医薬品等の品質、有効性及び安全性を確保するため、薬事関係許認可事務（GMP等実施状況調査を含む）及び監視指導（立入検査及び収去試験）を実施 ・国のPIC/S加盟に伴い必須となったGMP調査体制を整備するため、GMPリーダー調査員の継続的養成等を実施 監視指導を4,021件実施した。		
2	技術研修会	直接	医薬品等製造販売業者・製造業者・販売業者等の資質向上を図るため、研修会を実施 研修会を1回開催した。		

細事業 No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
2	医薬品等安全対策事業		170,856 千円	125 千円	54,148 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	医薬品類似商品安全対策	直接	医薬品等類似商品（いわゆる健康食品等）による健康被害を未然に防止するため、当該商品の試買（14品目）及び成分分析を実施 成分試験14製品		
2	薬局価格高騰対策支援事業	交付金	薬局が原油価格等の高騰の影響を受けながらも安定的なサービス提供を継続できるよう、光熱費等の価格高騰分の一部を助成 902施設、54,120千円を補助、令和7年度1月補正予算分は翌年度に繰越実施		

細事業 No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
3	医薬品適正使用・環境整備事業		7,665 千円	87,103 千円	49,987 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	ジェネリック医薬品使用促進事業	直接	後発医薬品（ジェネリック医薬品）の使用促進のため、県民への情報提供を実施 テレビ・ラジオCM2回、バナー広告(3,168,715回表示)		
2	電子処方箋普及・活用促進事業	補助金	電子処方箋の普及拡大、利活用の促進による質の高い医療サービスの提供、医療機関・薬局の業務効率化等を推進するため、電子処方箋管理サービスの導入費用の一部を助成 283施設へ補助		

細事業 No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
4	菅平薬草栽培試験地管理事業		16,437 千円	2,873 千円	2,955 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	菅平薬草栽培試験地管理事業	直接 委託	- 希少優良種の保存・選抜のため、ダイオウの継承栽培を実施 - 試験地等で栽培した薬草の成分評価のため、環境保全研究所で試験検査を実施 - 来場者が快適に薬草に親しむ環境づくりのため、見本園、自然園及び研修棟等施設の整備・修繕を実施 - 県民への生薬の普及啓発のため、観察会等により試験地を活用 - 財源確保のため、ネーミングライツパートナーを確保 - 日常的な試験地整備及び来訪者への対応が必要なため管理を委託 薬草に関する正しい知識の普及のための研修会を1回開催した。		

細事業 No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
5	毒物劇物安全対策費		851 千円	858 千円	553 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	監視指導	直接	- 保健衛生上の危害防止のため、毒物及び劇物取締法に基づき毒物劇物営業者等の登録・許可等の電算処理を実施 - 毒物劇物営業者等の毒物劇物取扱い等の適正化のため、立入検査を実施 - 毒物劇物に関する適正な取扱いや保管管理の徹底を図るため、危害防止運動を実施 - 毒物劇物に関する安全意識の高揚を図り、保健衛生上の危害防止のため、毒物劇物事故対策研修会を実施 立入検査数758回実施、研修会1回実施		
2	空気呼吸器保守点検	直接	毒物劇物による事故等の有事に備えるため、保健所に主に配備した空気呼吸器の保守点検・空気の充填及び法令の規定による耐圧試験を実施 保守点検・空気の充填11か所・18本実施、耐圧試験4か所・6本実施		
3	毒物劇物事故処理剤備蓄補助事業	補助金	毒物劇物の事故発生に伴う危害防止のため、毒物劇物事故処理剤備蓄に対する補助を実施 7か所6品目の備蓄を補助		

細事業 No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
6	地域医療介護総合確保基金事業（医療分野）		2,790 千円	4,225 千円	6,505 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	薬剤師を活用した在宅医療研修会	補助金	在宅医療に対応できる薬剤師の資質向上を図るため、薬剤師に対する研修事業を実施 1者に870千円の補助を行った。		
2	薬剤師復職・就業支援事業	補助金	病院・薬局等における薬剤師の適正な配置を確保するため、潜在薬剤師等の復職・就業支援事業を実施 1者に1,952千円の補助を行った。		
3	病院薬剤師確保事業	補助金	県内の病院薬剤師を確保するため、奨学金の返還を助成 奨学金返還中の病院薬剤師12名に助成		

細事業 No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
7	献血普及啓発事業		3,721 千円	3,758 千円	3,811 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	啓発及び体験機会の提供	委託 直接	・若年層の目に触れ易いバナー広告を利用した広報 ・若年層対象にポスター募集やプロスポーツチームとタイアップした啓発 ・幅広く啓発を行うためにラジオによる啓発を実施 ・気軽に体験できるように献血場所を提供 ・関係団体等と連携(献血推進協議会開催、献血推進員(40人)による啓発) 献血体験キャンペーンの実施（県内4箇所）		

細事業 No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
8	薬物乱用防止啓発事業		2,249 千円	2,334 千円	2,312 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	長野県薬物乱用対策推進協議会の運営	直接	長野県の薬物乱用意識の醸成のため、加盟団体を通じた啓発活動及び「ダメ。ゼッタイ。」普及運動の実施 県下16ヶ所にて、街頭キャンペーンを実施した。国連支援募金結果1,388,839円		
2	薬物乱用防止指導員の活動	直接	地域での薬物乱用防止啓発推進のため、薬物乱用防止指導員を設置 薬物乱用防止指導員371名に活動を依頼し、のべ41,555人に対して薬物乱用防止に関する啓発を実施した。		
3	薬物乱用防止意識啓発	委託	①薬物乱用防止指導員等ヘオバードーズ等の最新かつ正しい情報を提供するための研修会の実施 ②若い世代への薬物乱用防止啓発のため、音楽配信アプリ広告等を活用して集中的な啓発活動を実施 ③大学、専修学校、各種学校の学生指導担当者を対象に研修会を実施 ④若い世代への薬物乱用防止啓発のため、高等学校で薬物乱用防止教室を実施 ①研修会1回実施（学校薬剤師会研修会講師として協力） ②ラジオ20回、音楽配信アプリ配信広告21万回 ③研修会4校実施 ④研修会10回実施		

細事業 No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
9	医薬品取扱費		1,072 千円	610 千円	3,913 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	国有ワクチン類の備蓄・供給	直接	国有ワクチン等の特殊なワクチン及び緊急治療用血清類を迅速に供給するため、これらワクチン等の備蓄及び供給体制の確保を実施 乾燥ボツリヌスウマ抗毒素（ABEF型）県下2か所、乾燥ボツリヌスウマ抗毒素（E型）県下1か所、乾燥ガスエソウマ抗毒素県下1か所に備蓄した。		
2	抗インフルエンザウイルス薬の備蓄	直接	新型インフルエンザ等の発生とまん延に備え、健康被害及び経済への影響を最小限にとどめるため、抗インフルエンザウイルス薬の備蓄及び供給体制の確保を実施 286,200人分の抗インフルエンザウイルス薬（タミフルカプセル等全6品目）を備蓄した。		
3	抗インフルエンザウイルス薬の購入	直接	国備蓄目標に基づく抗インフルエンザウイルス薬の購入 タミフル（4,900人分）、タミフルドライシロップ（48,200人分）、ラピアクタ（7,400人分）の購入 翌年度に繰越実施		

細事業 No.	細事業名		R5年度 決算額	R6年度 決算額	R7年度 決算額
10	災害用医薬品等対策費		851 千円	880 千円	800 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和7年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	医薬品及び衛生材料の確保	補助金 直接	・災害時に必要となる医薬品及び衛生材料を確保するため、備蓄に対する補助を実施 ・薬事管理課及び保健福祉事務所において、事故発生時の応急処置をするための医薬品を配備		
			2者に800千円の補助を行った。		